



【ヌールさん一家】（本誌 4.5ページでインタビュー）



上のヌールさん一家の写真はアル・カイールアカデミー卒業生のハスネンさん（25歳）が撮影しました。彼は本校で大学入学資格を取得、その後アル・カイールカレッジへ進学しました。さらに、アル・カイールの奨学金を得て別の学校でデザインと編集を学び、技術を取得しました。現在、彼は学校のスタッフとして働いています。

◆◇JFSA ホームページ  
Facebook ページもご覧ください◇◆



JFSA HP



JFSA facebook

◆◇会報についての感想やご意見をお気軽にお寄せください◇◆

JFSAまでメール・お手紙でお送りください

[jfsa@f3.dion.ne.jp](mailto:jfsa@f3.dion.ne.jp)



←こちらの QR コードを読み取っていただくと、メール作成画面になります。

# アル・カイールアカデミー近況報告

海外事業担当事務局 依知川 守

## 【アル・カイールアカデミーの現在】

パキスタンでは学校が数ヶ月ごとに休校と再開を繰り返してきました。

最近では9年生以上は7月9日から（8年生以下は7月16日から）休校が続いていましたが、どちらも8月末から授業が再開されました。現地の様子についてムザヒル校長に伺いました。

## （ムザヒル校長）アル・カイールアカデミーは、8月31日から政府の方針に従つて人数を50%に制限する分散登校の形で授業を再開しました。当局が近い将来100%の出席を許可することを願っています。

学校職員の多くは既にワクチン接種を受けており、生徒とその保護者への接種も進行中です。これは、すべての人々にワクチンを接種するという政府の方針によるものです。特に教師にはワクチン接種が義務付けられており、実行しないと学校は活動を続けることを許されません。

カラチ市では前回第三波のピーク時に比べ、感染者数は現状では数は下回つており、少し落ち着いているように感じますが、政府は引き続き日曜日にロットクダウンを実施しています。

もし学校の教師、生徒や生徒の家族

が新型コロナウイルスに感染した場合、アル・カイール医療センターのイクバル医師の協力を得て、感染者が専門の病院で診察を受け、適切な治療を受けること、また必要に応じて病院のベッドが手配されるための支援をします。

## 【アル・カイール医療センターについて】

（ムザヒル校長）昨年10月に、アル・カイールカレッジの1階スペースにアル・カイール医療センター（耳鼻咽喉科）を開設しました。目的は、病気の初期の段階で治療に繋げることで症状の悪化を防ぐことです。

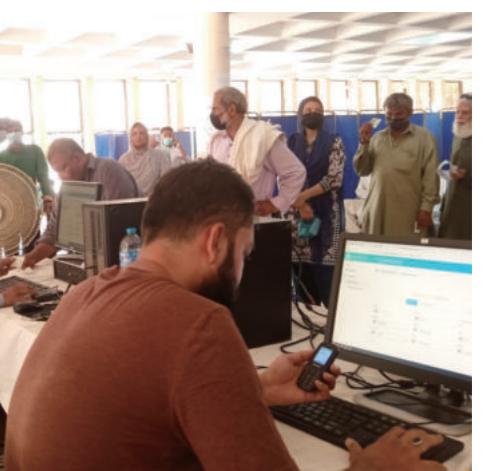
開設には私の友人で医師の、イクバル・ハツサン氏（ダウ医科大学元教授）が協力してくれました。現在は毎日20～30人程の患者が訪れてています。

学校という教育活動は、その成果を長く目で捉え「待つ」必要があります。一方で医療活動は目の前に助けを求める人々がいるため、教育分野に比べ寄付金は集まりやすい傾向にあります。実際、NGOが運営する病院はカラチ市内にも沢山あります。しかしそれらの病院では患者数の増加により提供する医療活動の質が下がってしまう

傾向にあるのです。私たちの医療センターでは自分たちの医療活動の質の管理も大切にしています。

何より教育活動と共に医療活動があれば学ぶことができませんし、親の病気は仕事をすることを困難にします。医療の存在が家族の健康を守り、子どもたちの学びの機会を支えることに繋がります。

子どもたちの学びの機会を支えることは大切です。子ども自身が病気になれば学ぶことができませんし、親の病気は仕事をすることを困難にします。医療の存在が家族の健康を守り、子どもたちの学びの機会を支えることに繋がります。



公立病院でのワクチン接種の様子。18歳以上は無料で受けられる  
政府は今後は対象を15歳以上へ変更することを計画している



8月末に再開した学校の様子



【イクバル医師との出会い】  
（ムザヒル校長）イクバル医師は私よりも2～3歳年下なのですが、最初の出会いはとても小さい頃でした。私たちはダドウという内陸部の街で育ち、その後それぞれカラチへ移り住みました。1987年4月、私が現在のアル・カイールアカデミー本校の場所のそばで最初に教育活動を始めた頃、イクバル氏を含め私の友人が現場を訪問してくれました。当時は布切れを纏った小屋が教室で、生徒たちはイクバル氏の言葉を今も覚えていました。「この地域で女の子が学ぶのは難しいだろう。」更に他の友人からは「こんな地域での教育活動は時間の無駄。」「あなたは大学も出たのだから他の仕事をするべきだ。」とも言われました。この地域では親も学校に行けなかった人が多いいるため、彼らに教育の必要性（特に女子教育）が理解されるのは難しいだろうという背景があるからです。

私はその年の8月14日の独立記念日に、既に70名程に増えていた生徒達と一緒に70名程に増えている生徒達と一緒にイベントを行なう事にしました。出し物は生徒による演劇やコメディなど様々で、生徒の家族だけではなく地域の大勢が見物に訪れ大変賑わいました。そして私がその場で女子教育の大切さを集まつた人々に伝えたのです。すると彼らは理解してくれ、その後女子生徒が一気に増え



6月に行われた甲状腺手術の様子



診察の様子



イクバル医師

医療センターではイクバル氏を含め医師3名、看護師1名、作業療法技術者2名、受付係が働いている。  
施設として病棟2室、手術室1室、OPD室（外来診療部門）1室、内視鏡検査室1室、聴力検査室1室（完成予定）、待合室があり、将来の拡張に備えて1室が用意されている。  
今年6月初旬には、アル・カイール医療センターで初の甲状腺手術が行なわれた。  
センターでは学校の生徒に限らず、地域の全ての人を受け入れており、診察、治療、手術など全て無料。  
また、女性の相談窓口として、妊娠、出産に対する相談にも応じている。